

第 10 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会 報告 Let's Take Action!

「女性と子どもの健康のために、行動を起こそう！」をテーマに掲げ、7 月 24 日から 26 日まで、ベトナム・ハノイにて第 10 回国際助産師連盟 (ICM) アジア太平洋地域会議・助産学術集会が開催された。本会からは福井トシ子常任理事・佐山静江助産師職能副委員長が代表として出席した。

学術集会にはアジア太平洋地域 21 カ国のほか、計 35 カ国から約 500 人が参加し、基調講演、ワークショップや口演、ポスター発表を通して、各国の取り組みについて議論がなされた。日本からも 50 名を超える参加があり、特にポスター発表では非常に多くの日本の助産師が積極的に発表をおこなった。

基調講演では、ICM、各国助産師協会、WHO や関連団体等の演者が、2015 年までに国連ミレニアム開発目標 (MDG5: 妊産婦の健康状態の改善) を達成するために、アジア太平洋地域内の妊産婦や子どもの健康に関する現状や、それに関する国際的、国内的な取り組み、助産師に期待される役割について述べた。妊産婦の健康状態の改善に助産師が果たすべき役割が大きいことから、基本的助産業務に必須な能力を土台とし、助産師教育や規制の強化による助産の質の保証と、助産師を支える職能団体の組織強化が重要であることが強調された。

“Let's Take Action”というテーマにふさわしく、すべての女性と子どものために、ベトナムの暑さに負けない、助産師の熱い想いとパワーに包まれた大会であった。

